

「家庭基礎」 指導計画書

教科	科目	単位数	年次	全員/コース/選択
家庭	家庭基礎	2	1	全員

1. 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2. 学習の評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を通じて課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。
<p>評価の方法</p> <p>授業態度、作品、レポートなどの提出状況、定期考査などを総合的に評価する。</p>			

3. 年間指導計画

時期	時数	指導内容
前期中間まで	17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年期の自立（人の一生と生活課題） ・ 子供の生活と保育（乳幼児期の特徴、生活習慣、健康と安全）
前期期末まで	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活と福祉（人間の尊厳） ・ 共生社会を生きる
後期中間まで	18	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活と健康（栄養素の働き、調理実習、食文化、持続可能な食生活） ・ 衣生活と健康（被服の素材、被服の管理、保管、安全）
後期期末まで	17	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住生活と健康 ・ 消費生活と持続可能な社会（生活を支える経済、家計の国際化、消費者問題、消費生活の裏側で）